

天皇誕生日祝賀レセプション（2013年12月13日）における東博史大使の挨拶（仮訳）

ご列席の皆様、本日はお集まり頂き誠にありがとうございます。12月23日の天皇陛下の80回目の誕生日をお祝いする本日のレセプションに皆様をお迎え出来ることは、私にとって大いなる名誉であり、喜びでもあります。

同時に、11月20日にカヴァコ・シルヴァ大統領に信任状を捧呈した新任の日本国大使としまして、この度初めて、国祭日レセプションを開催させて頂くことを大変嬉しく、誇りに思います。

天皇陛下は、12月23日に80歳の誕生日を迎えられます。天皇陛下は、ご高齢にも関わらず積極的にご公務をこなされておられます。天皇皇后両陛下は、去る11月30日から12月6日まで、インドを親善訪問されました。

さて、2013年は、ポルトガルにとって試練の年であったかと思いますが、そのような中でも困難に向かって真摯な努力をされておられるポルトガルの皆様に私は敬意を表します。

日本とポルトガルの二国間関係においては、本年は両国にとって、1543年にポルトガル人が最初の西欧人として種子島に漂着してから「470周年」の記念すべき年でもありました。本年は3月のポルトガス外相（当時）の訪日をはじめとして、6月の国際ロータリー大会に併せた日本の姉妹都市関係者のポルトガル訪問及び各都市関係者との交流等活発な人の往来が行われました。また経済面でも7月の経団連ミッションのポルトガル訪問、二重課税防止条約の発効、丸紅のポルトガルの電力事業への参入、カゴメの研究センターの設置、内山工業の生産ライン増強等日本企業の新規投資の動きが見られ、二国間関係の進展にとって非常に心強い年となりました。

両国間で8組ある姉妹都市及び国際友好都市間でも積極的な交流が進んでいます。私は10月、当地への着任前にポルトの姉妹都市である長崎市と、レイリアの姉妹都市である徳島市を訪問しました。両都市市民がポルトガルを良く理解し、親しみを持っていたことが印象的で、およそ5世紀にもわたる両国の歴史的な繋がりを再認識しました。ポルトガルの皆様にも日本のことを良く知って頂きたく、日本国大使館では今年に引き続き来年も日本祭りや映画祭、書道展等様々な文化行事を企画していきます。

今後とも二国間関係の更なる発展が実現されるよう尽力していく所存です。

本日は、先日UNESCOの無形文化財指定を得た我々が誇るべき日本文化である和食、日本酒を皆様に十分に堪能して頂きたく存じます。

皆様、今一度、本日はお集まり頂きありがとうございました。天皇陛下の80回目の誕生日と今後の二国間関係の更なる発展を祈念しまして乾杯をしたいと思います。どうぞグラスをお取り下さい。

乾杯。